

## Sixth China-Korea-Japan Joint Conference on Meteorology 参加レポート

気象学研究室 修士2年

久野木 梓織

私は2013年10月24～25日に中国江蘇省南京市で開催された Sixth China-Korea-Japan Joint Conference on Meteorology に参加し、Session 3 の Atmosphere-Ocean-Land Interaction で口頭発表をしてきました。今回は、その様子を感想文という形で報告します。写真1は、開会式が行われた南京信息工科大学の気象楼（建物丸々ひとつが、気象に関連する研究が行われているようでした）のホールです。



写真1. 開会式時の様子

国内の学会やシンポジウムでは何度か発表経験がありましたが、今回は初めての英語での口頭発表でした。これまで、英語での発表は聞く経験もなかったため、スライドの作り方を調べるところからのスタートでした。また、発表は英語ですが、今回の参加者は中国人、韓国人、日本人で、聴衆にネイティブの人はほとんどいないことが予想されました。上手く話せなくても、見ただけで伝わるようにというアドバイスをいただき、シンプルかつ、伝えたい情報が分かりやすいスライドになるように心掛けました。写真2は、左が日本での発表で使用したスライド、右が今回使用したスライドで、どちらも観測の結果、2本の前線構造と黒潮を通過したことを示しています。今見直すともっと改善できそうなので、気象学会にむけて準備を急ぎたいと思います。

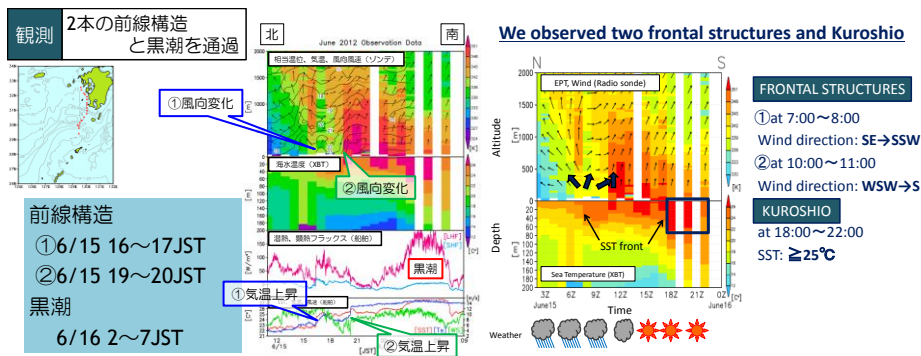


写真 2. 日本語と英語のライド

発表は、大会 1 日目の 24 日午後のセッションでした。日本での発表時と同様に、原稿を書いてすべて覚え、毎回ほぼ同じ時間で終われるようになるまで練習して臨みました。普段の発表では、始まると緊張がほぐれていくのですが、今回は全くほぐれず、途中で覚えた原稿を忘れてしまいました。たくさん練習をしたので、単語を覚えていてなんとか終わることができましたが、頭から血の気が引いていく感覚はしばらく忘れないと思います。

今回、空港まで運営委員の方がお迎えに来てくださり、会場までも送迎バスがあったため、街中を歩くことは全くありませんでした。ホテルは、5 つ星が付く金陵新城飯店 (写真 3) というホテルでした。ホテルのロビーには写真 4 のような表示がありました。部屋もとてもきれいで広くて、3 日間とてもリラックスして過ごすことができました。



写真 3. 宿泊したホテル



写真 4. ホテルのロビーにあった表示

中国の国内線では、フライト時間が1時間でも機内食のサービスがありました。飛行中に街並みを見たのですが、至るところで工事が行われ新しい高層ビルが数多く建設されていました。高層ビルと平屋や畑が隣接している地域があったり、道路が多いと思ったら、道路ではなく水路が張り巡らされている地域があったりして、日本とは異なる街並みがとても新鮮でした。また宿泊した南京市でも24時間、工事が行われていました。

今回、同行させていただいた他大学の先生や、現地で出会った日本の研究者の方々に大変お世話になりました。英会話がもっとできれば、ホテルでの手続きがスムーズにでき、他国の学生とももっと交流ができたのにと思います。

今回の経験は、自分の発表を誰が聞いてくれるのかを改めて考えながら準備をする良い機会となり、また視野を広げる意味でも、英会話力のなさを実感する意味でもとても良い経験となりました。